

2011年6月16日

一般社団法人ティール&ホワイトリボンプロジェクト

報道関係各位

## 一般女性 1,000 名に対する子宮頸がんに関する意識調査結果と 今後の子宮頸がん啓発の課題についてのご報告

謹啓

初夏の候、皆様方におかれましては益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。また、平素は私共の活動へのご理解、ご支援誠にありがとうございます。

さて、一般社団法人ティール&ホワイトリボンプロジェクトでは、2011年4月に、一般女性の子宮頸がんに関する意識調査を行い、主に Web 上で、1,058 名から回答を得ることができました。

私たちは、本日、この調査結果の発表とともに、今後の子宮頸がんの啓発における課題と、私たちの取組について、ご紹介させていただきましたので、皆様にお届けいたします。

子宮頸がんの啓発には、メディアの皆様のご協力が不可欠です。いまいちど、課題を共有させていただき、一緒に啓発へのご協力を賜れば幸いです。

末筆ではございますが、皆様のご隆盛心より祈念申し上げます。

謹白

【意識調査結果】実施期間：2011.4.11～4.18／ 回収数：1,058 人／ 調査方法：インターネット

回答者背景は 20～40 代が中心であり、調査結果の概要としては、震災後の AC の効果か、9 割以上の女性が「子宮頸がん」という言葉を知っており、7 割以上が予防できるがんであることは認識しているものの、ウィルス感染が原因であるを知っているのは半数程度、原因となるヒトパピローマウィルス（以下 HPV）が、ごくありふれたものであり、誰にでも感染の可能性があるを知っていたのは、3 割程度という結果でした。しかしながら、HPV 予防ワクチンの存在は、7 割強が「知っている」とし、予防できるがんであることへの認識と一致していました。一方で、HPV ワクチンがセクシャルデビュー前の女性に効果的であることを知っているのは 4 割弱であり、予防効果については、実際には 60～70%であるのに対し、7 割近くの女性が 70%以上の確率で予防できると認識していました。

子宮頸がん予防において、ワクチン接種とともに重要な検診については、前がん病変を検出する細胞診検査と、HPV 感染の有無を検出する HPV 検査の機能の混同がみられていました。

【総評と今後の啓発課題】

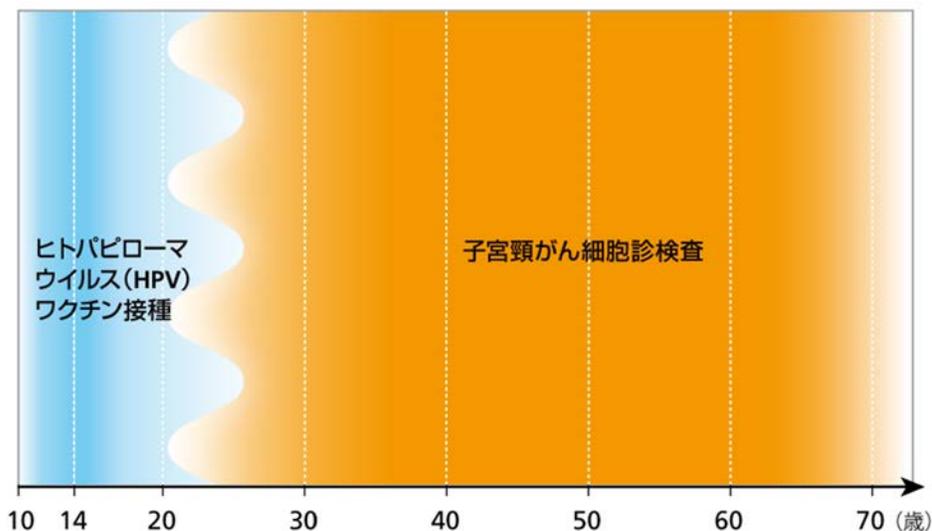
「子宮頸がん」という言葉、「予防できるがん」、との認知は進んだものの、予防のために知っておいてほしい大切なことの認知はまだ充分ではないことが本調査から伺えました。今後の啓発の課題点として、

- 子宮頸がんの原因は HPV 感染であること
- HPV 感染は、特別なことではないこと（誰にでも可能性があること）
- HPV 感染は、ワクチン接種で予防可能だが、予防効果は 60—70% であること
- 子宮頸がんは、細胞診による検診で、がんになる前の状態で発見できること
- 子宮頸がん予防のためには、ワクチン接種とともに、定期的な検診が必要であること

を、より強調して啓発に取り組んでまいります。

ティール&ホワイトリボンプロジェクトは、これらの課題に取り組むため、「予防・検診」に関する科学的根拠に基づいて、ワクチンと、検診が、それぞれどの年代に必要であるか、整理して提示するためのマテリアルを作成し、全国に配布する予定です。

Key Message 子宮頸がん予防のために、10 代にワクチン接種を、20 代以降は、検診を！



以上